

日本の元気をめざす **現代の歯科医療**

Featuring **先端歯科治療 実力・実績歯科医院**



ケアルームはリラクゼーションを意識した落ち着いた空間に

包括的な口腔ケアで「口から食べる」をあきらめない  
 地域を見守り、支える未来志向の歯科医療

医療法人社団 健歯会 **吉原歯科医院**

**口腔機能をケアする  
 総合的な歯科治療**

吉原歯科医院は、訪問診療、口腔ケアに特に注力している。

「たうたスプーン一杯の水でも、口からものを食べられる喜びは計り知れないものです」

同院の吉原正明院長は、口から食べることは「生きていく証」だと言う。

「高齢の患者さんにも、最後まで口を使って食べてもらうのが理想です。食欲は歳をとってもなくなりません。食物を口から摂取することで、筋肉が

動き、唾液が分泌され、内臓が動き出し、身体の調子を整えてくれるんです」

口腔機能を保つためには、歯だけでなく、口腔や口の周りのケアが欠かせない。同院では包括的な歯科医療に積極的に取り組んでいる。

**治療の先にある願い  
 食べる喜びを取り戻す**

「訪問診療で寝たきりの患者さんの口腔ケアをすると、心から喜んでくれるんです。口の中は家族でもあまりよく知らない。いままでもあまり注目されていませんでしたが、汚れた口の中をお掃除してあげると、食欲が戻り、身体も心も元気になります」

口腔ケアでは特殊なブラシを用いて、患者の口腔にこびりついた汚れを取っていく。介護の現場でも見落とされがちな口腔ケアだが、味覚を取り戻すことでさまざまな機能が活性化されると注目を集めつつある。近年問題になっている老人の誤嚥性肺炎を防ぐのにも有効だ。

「入れ歯を作って、治療をして終わりではないんです。おいしいものを食べたいという欲求を満たしてあげると、ご家族や本人の想いを叶えてあげる



「口腔内をマッサージして刺激を与えたり、衰えていた口唇や頬や舌の筋肉を使うことで咀嚼、嚥下機能をゆっくり回復していく。口腔機能にもリハビリは必要なんです」

**超高齢化社会に必要とされる  
 歯科医療の最前線**

吉原院長によると入れ歯や義歯は装着後すぐに咀嚼ができるようになるわけではないという。口腔機能を回復するためには時間とトレーニングが必要。機能を取り戻すための口腔リハビリテーションも同院が取り入れるプログラムのひとつだ。



院長 吉原 正明(よしはら まさあき)

1959年広島県生まれ。日本大学松戸歯学部卒業後、シツキ歯科勤務を経て、90年吉原歯科医院を開業。92年から訪問歯科診療を開始。

同院では通常の治療設備のほかにケア専用のスペースを確保、ケア(治療)とケア、両方の設備の充実を図っている。

「三田で開業して最初の患者さんが寝たきりになって、訪問介護をはじめた」という吉原院長。1992年の訪問診療スタートから20年あまり。現在では患者さんの自宅だけでなく、兵庫県内の病院や特別養護老人ホームなどの各種施設にも訪問歯科診療の輪が広がっている。超高齢化社会の到来で、ますます重要になる歯科、口腔ケアの分野。

「今後も変わらず、治療の先にある患者さんの願い、ご家族の願いに寄り添って治療を続けたい」吉原院長の視線は、未来の歯科医療を見つめている。

医療法人社団 健歯会 **吉原歯科医院**

併設:さんだ口腔介護支援センター

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1-11

フラワータウン駅ビル705号

TEL.079-562-8471 FAX.079-562-8472

【診療科目】 歯科、小児歯科、矯正歯科

【診療時間】 月・火・木 9:30~12:30/

14:00~19:30 水 9:30~12:30

土 9:30~12:30/14:00~17:00

【休診日】 日曜・祝祭日

<http://www.yoshihara-shika.jp/>

